

児童文化研究部 実技研修会

令和6年2月16日の全国大会に向けて、練馬区児童文化研究部の取り組みも少しづつ紹介をしてまいります。まずは、第1回全体研究会の様子を記事（ホームページに掲載）にしたものです。

児童文化研究部実技研修会

6月14日の午後は、練馬区の全ての先生が、ご自身の自主的な研究を行う「教育会全体研究会」が行われました。国語、算数などの教科や特別活動などの領域、さらには特別支援教育や児童文化など幅広い分野ごとに分かれて研究授業や実技研修会、講演会などが行われます。こういった機会が年数回設定されています。

本校では、「児童文化研究部」の実技研修会が行われました。

楽しくなければ学校じゃない

この合い言葉のもと、児童文化研究部は、様々な分野の専門講師を招いて、毎回、明日からの授業に生かせる手法を学べる楽しい実技研修会を提供しています。

今日の講師は、「荒牧光子（あらまきみつこ）」先生。本研究部の顧問のような存在です。「遊び塾はらっぱ」の主宰として、子供たちに楽しい遊びやゲームダンスなどを教える文字通り「遊びのプロ」です。全日本レクリエーションリーダーをはじめ、アクティビティーディレクター、キャンプインストラクター等々、多くの肩書をもたれ、大学も教鞭も取っておられる方です。YouTube も開設されています。

ギタ一片手に

数えきれない「引き出し」をおもちの中、今日は「手遊び歌」を中心としたプログラムを多数紹介してくださいました。ギタ一片手に研修会のはじまり。会場は手拍子、歌声、合いの手、拍手、笑いに包れます。ひとつのプログラムが約5分。流れるように進みます。気がつくと開始の前には「研修前の神妙な面持ち」の先生方が、いつのまにか「満面の笑顔」

絶妙

それぞれのプログラムがとにかく面白い。明日から学級で使えるものばかり。荒牧先生から次々と繰り出されるパフォーマンスを「興味津々」で「目を皿のように」見つめる先生方。

我々が同じことをやろうとしても、こうはうまくいきません。間合いを取る、場の空気を読み即座に反応する、間違いや失敗も笑いにかえるなど、MCのような技とセンスがあるから盛り上がるのです。

これこそが教師の資質

荒牧先生ご自身が心の開放をされ全身で楽しんでおられます。「アドレナリンが出まくって」いるようです。学ぶべきは、このようなご姿勢。「笑顔は教師のユニフォーム」「子供たちよりも自分が楽しく」を率先される。これこそが教師に最も求められる資質です。

本年度は、児童文化研究の全国大会があります。このような手法が本校に加わること、楽しみしかありません。

第2回は「学芸会に役立つ劇指導」です！興味ある方はぜひ（＾＾）